

報 告

家族同心球環境理論に基づいた養育期家族における 父親役割獲得不全への影響因子に関する文献検討

中口 尚始¹⁾, 本田 順子²⁾, 法橋 尚宏²⁾

〔論文要旨〕

養育期家族の父親はさまざまな役割をもつが、役割獲得不全も起こり得る。本研究は、父親役割獲得不全への影響因子を文献検討により明らかにすることを目的とした。医中誌 Web と PubMed で「父親役割」などをキーワードにして最新10年分の論文を検索した。法橋が提唱した家族同心球環境理論に基づき32件の論文の内容分析を行い、影響因子を抽出した。危険・原因／促進因子は【母親／妻の予期せぬ妊娠】など8カテゴリー、予防・阻止／抑制因子は【良好な夫婦関係】など10カテゴリー、状況依存性因子は6カテゴリーがあり、家族同心球環境理論の視点から、これらの影響因子に働きかけて父親役割獲得を促す家族支援が必要である。

Key words : 父親役割, 影響因子, 家族, 家族同心球環境理論, 文献検討

I. はじめに

養育期家族における父親役割としては、仕事をとおりして家庭に貢献する役割、妻の相談相手や精神的支持をする役割、家族を見守る役割など、育児家事以外にもさまざまな役割が期待されている¹⁾。しかし、わが国では、18歳以上の男性の40.6%は、外で働き、女性は家庭を守るという伝統的な性別役割分担意識を支持している²⁾。このような男性は、自らの主要な役割は職業役割であると強く意識し、子育て参加が少なくなる傾向がある³⁾。したがって、現在のわが国の養育期家族では、父親の役割獲得不全という問題が起こりやすい状態にある。

役割理論において、家族員の役割行動が家族の期待どおりに履行されないと役割葛藤が生じ、役割相補性がない家族は情緒的な反発が生じ、家族員同士の関係に障害を来すことで家族機能の低下につながるとされている⁴⁾。このように、家族機能に影響し得る父親役

割獲得不全という問題は、家族が主観的に認識もしくは看護師が客観的に認識し得る家族の困難状態である家族症候⁵⁾の一つである。この家族症候は、わが国の文化的背景なども影響していることが考えられるので、国外のみならず国内の先行研究を含めてその影響因子の全体像を解明する必要がある。父親役割獲得を促す影響因子に関する研究はこれまでもあるが、役割獲得を妨げる影響因子に関する文献は少なく、その中でも、父親の育児に関する役割のみに限定されたものの⁶⁾や、NICU などの限局的な状況下における父親への育児支援を記述したもの⁷⁾が多い。したがって、家族員の病気や障がいの有無にかかわらず、全般的な養育期家族における父親役割獲得不全に関する影響因子の全体像を明らかにし、実践に結び付けるためにこれらの先行研究を統合し、検討することが必要である。

家族症候の影響因子を実践に統合している家族看護中範囲理論として、法橋が提唱した家族同心球環境理論 (Concentric Sphere Family Environment

A Literature Review Concerning Influencing Factors on Insufficiencies in Attainment of Fathers' Roles in a Child-rearing Family Based on the Concentric Sphere Family Environment Theory
Hisashi NAKAGUCHI, Junko HONDA, Naohiro HOHASHI

[2926]

受付 17. 5. 8

採用 18.11. 9

1) 神戸大学大学院保健学研究科看護学領域 (大学院生)

2) 神戸大学大学院保健学研究科看護学領域 (研究職)

Theory : CSFET) がある。これは、家族システムユニットのウェルビーイングに作用する家族環境に焦点化した理論である^{5,8)}。なお、家族システムユニットとは、家族がシステムかつユニットであることを明確にするために家族同心球環境理論において用いられる表現であり、本研究においても“家族”の別称としてこの用語を用いる。CSFETでは、家族環境は3つの評価軸（構造的距離、機能的距離、時間的距離）によって3次元時空を形成し、その中に5つのシステムが配置されることで、家族システムユニットの立体的な全体像を可視化する。3つの評価軸のうち、構造的距離は物理的に離れている程度、機能的距離は心理的に離れている程度、時間的距離は時間の経過による各システムの変容を示している。この3つの座標軸によって、家族を含む各システム間の関係、その時間の経過による変容をアセスメントできる⁴⁾。5つのシステムとは、家族内部環境システム、マイクロシステム、マクロシステム、スーブラシステム、クロノシステムである（図）。なお、マイクロシステム、マクロシステム、スーブラシステムは、まとめて家族外部環境システムという。この5つのシステム内には、それぞれ家族資源が

存在している。家族内部環境システムは、家族の生活時間や家族のルール・ビリーフなどの家族資源を含む、個々の家族員とその活動で構成されている。マイクロシステムは親類や友人などの家族資源を含む、家族と地縁でつながった地域コミュニティで構成される。マクロシステムは職場や教育・保育機関などで構成される。スーブラシステムは、宗教や国民性などの家族資源を含む、家族環境を作り出す外枠である。家族内部環境システム、マイクロシステム、マクロシステム、スーブラシステムは同心球状の入れ子構造となっている。クロノシステムは、家族イベントへの適応や家族の希望の実現など、現在から未来に向かったベクトルをもつ家族の時間で構成される⁴⁾。CSFETでは家族症候の影響因子をコントロールすることが家族ケア／ケアリングであり、これにより家族ウェルビーイングを実現できる。また、CSFETにおいて、家族支援であるケア／ケアリング計画は、影響因子ごとに家族看護目標および家族看護計画を作成し、各影響因子を除去・減弱したり、付加・増強することで家族症候を解消させる⁵⁾。したがって、父親役割獲得不全の影響因子を考えるうえでCSFETを使用することで、実際の家

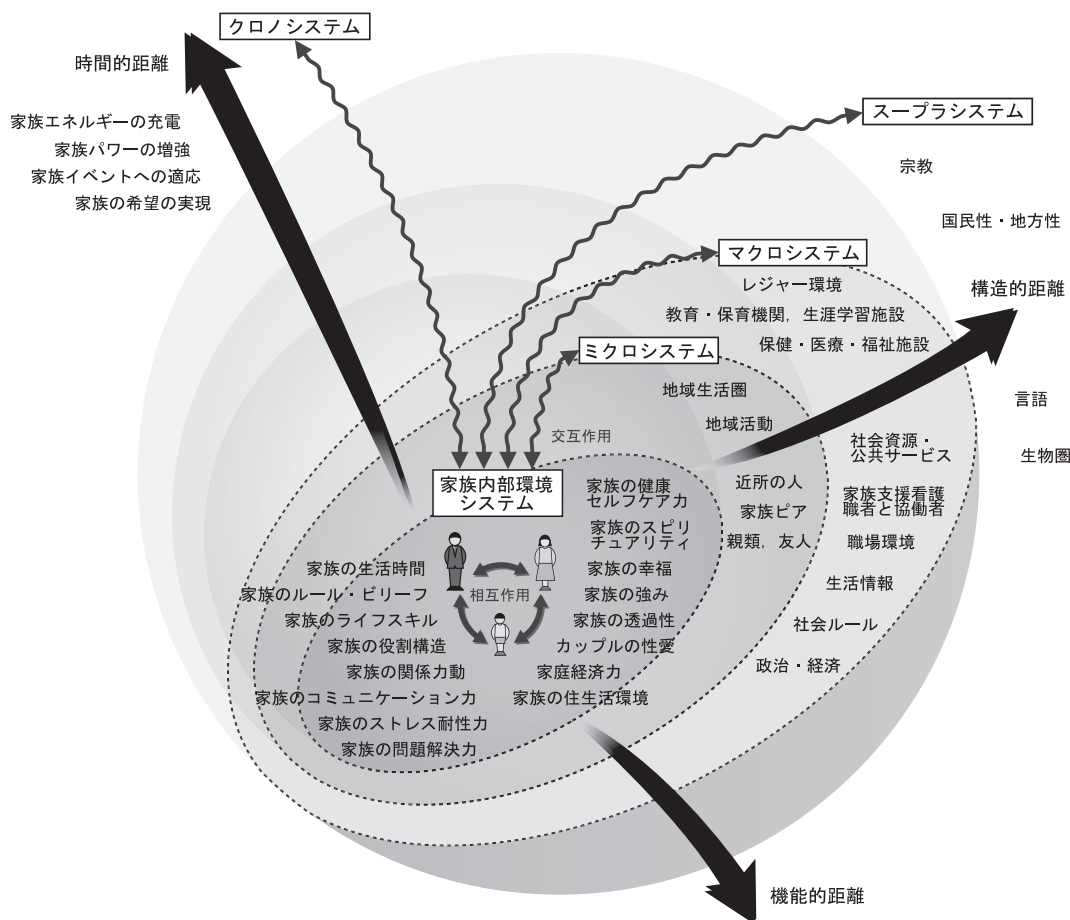


図 家族同心球環境モデル (CSFEM) (バージョン2.5)

族支援に直接結びついた有用な知見が得られると考える。また、包括的に養育期家族における父親役割獲得不全について明らかにするためには、家族だけでなく、家族を取り巻く居住地域や政治、経済、文化などの環境からの影響も考慮すべきである。しかし、そのような環境まで広く捉えた家族看護理論は少ない。また、養育期家族は子どもの成長・発達が顕著な時期にあり、家族のアセスメントや支援には時間的経過も考慮に入れる必要があるが、家族の時間的経過を捉えることができる家族看護理論はCSFET以外にない。したがって、CSFETを用いることで、父親役割獲得不全への影響因子を家族内部環境システム、家族外部環境システム、クロノシステムの視点から包括的に捉えることができる。以上より、本研究では、CSFETを枠組みとして、国内外の文献検討により養育期家族における父親役割獲得不全への影響因子の全体像を明らかにすることを目的とした。

II. 方 法

1. 用語の定義

父親役割とは、“父親としての価値観、態度、行動を含む文化的総体であり、父親と母親、子どもを含む家族システム内のメンバーに責任を伴うもの”と定義した⁹⁾。父親役割獲得不全とは、“他者から期待されている父親役割を父親が期待どおりに履行できていない状態のこと”と定義した。養育期家族とは、“就学前の子どもがいて、その養育に家族の力を注ぎ、社会とのつながりが変化する時期”とした⁴⁾。影響因子は法橋ら⁵⁾の定義を用いて以下とする。危険因子は“家族症候（本研究では父親役割獲得不全のこと）を出現させやすくする因子”，原因因子は“家族症候の出現を引き起こす因子”，促進因子は“出現している家族症候の家族症候度を高くさせる因子”と定義し、これら3つを合わせて“危険・原因／促進因子（risk causal promoting factor：RCP）”とした。予防因子は“家族症候を出現させにくくする因子”，阻止因子は“家族症候の出現を阻害する因子”，抑制因子は“出現している家族症候の家族症候度を低くさせる因子”と定義し、これら3つを合わせて“予防・阻止／抑制因子（preventive inhibitory suppression factor：PIS）”とした。なお、家族症候度とは、高いほど家族症候の予後が悪いことを示している。状況依存性因子（context-sensitive factor：CSF）は、“ある家族ケー

スではRCPになったり、ある家族ケースではPISになる因子”と定義した。

2. 文献収集方法

文献データベースの医中誌 Web ではキーワードを“父親役割”，論文の種類を“原著論文”，発行期間を“2006年から2016年までの10年間”に設定して検索した。また、PubMed ではキーワードを“father role” OR “father’s role” OR “paternal role”，論文の種類を“journal article”，発行期間を“2006年から2016年までの10年間”，言語は“English”として検索した。世帯の小規模化の進行など、近年の社会背景を考慮して父親役割獲得の影響因子を検討するために、対象文献は最新10年間に絞った。医中誌 Web では23件、PubMed では55件、合計78件の文献がヒットした。各文献を精読し、養育期家族における父親役割獲得不全への影響因子を研究結果として記述していることを選択基準とし、32件を分析対象とした。

3. 分析方法

対象文献に対して、Krippendorff の手法を参考にし、CSFETに基づいてダイレクトコンテンツアナリシスを行った^{10,11)}。まず、父親役割獲得不全への影響因子に関する記述を対象文献で述べられている結果から文脈ごと抜き書きし、1つの記述内容ごとに記録単位に分割した。そして、それらの記録単位をRCP、PIS、CSFに分類した後、それぞれの内容の共通性にしたがって、サブカテゴリー、カテゴリーへと集約した。記録単位を3つの因子に分類する際には、その記録単位の前後の文脈から、父親役割獲得を阻害するように父親役割獲得不全を出現させやすくしたり、引き起こしたり、家族症候度を高くさせると述べているものはRCP、逆に、“父親役割獲得を促す”のように父親役割獲得不全を出現させにくくしたり、阻害したり、家族症候度を低くさせると述べているものはPISに分類した。一方で、“父親の役割獲得に影響している”，“父親の役割獲得に関係がある”のように、父親役割獲得不全への影響因子ではあるが、前後の文脈や結果・考察からRCPもしくはPISと判断できないものは、CSFに分類した。なお、本研究においては、養育期家族の父親役割獲得不全に何らかの影響を与える可能性のある因子をすべて含むため、家族の属性など（例えば、子どもが疾患や障がいをもつことなど）は考慮

表1 父親役割不全への影響因子に関する文献一覧

文献番号	論文名	研究が行われた国・地域	対象者	筆頭著者	収載誌
1	父親の育児参加と幼児期子どもの社会性の発達に関する研究	日本	幼稚園もしくは保育所に所属している4歳から6歳の幼児の親	鍋島和貴 ^a	藍野学院紀要 2016; 28: 41-53.
2	勤務助産師が行う父親役割獲得を促す支援とその関連要因	日本	病院・診療所に勤務する助産師	磯山あけみ ^a	日本助産学会誌 2015; 29 (2): 230-239.
3	初産婦が産褥早期に育児困難感を抱く要因: 出産後から5日間の短期縦断調査より	日本	20歳以上で、産科的合併症および精神疾患をもたない経膈分娩後の褥婦	藤岡奈美 ^a	母性衛生 2014; 54 (4): 563-570.
4	在宅重症心身障害児の父親が父親役割を遂行するための調整過程	日本	在宅で生活する重症心身障害児の父親	下野純平 ^a	日本小児看護学会誌 2013; 22 (2): 1-8.
5	NICUにおける父親にとっての祖父母面会の意味	日本	NICUの入院児に面会を行った父親	島津達子 ^a	日本看護学会論文集: 小児看護 2012; 42: 171-174.
6	幼児前期までの時期における『Paternal Attachment』: 概念分析	—	—	関森みゆき ^a	聖路加看護学会誌 2011; 15 (2): 1-8.
7	極低出生体重児を出生した家族における父親の役割形成とその関連要因	日本	NICUにて第1子が出生した核家族の父親と母親	中富利香 ^a	小児保健研究 2011; 70 (2): 238-244.
8	親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験	日本	正常な妊娠経過で妊娠34週から分娩に至った妻をもち、初めて親となる男性	森田亜希子 ^a	母性衛生 2010; 51 (2): 425-432.
9	父親という意識の受容過程に関する質的研究: 妊娠診断から産後1ヵ月までの父親意識の変化	日本	初めて父親となり、子どもが1ヵ月健診で正常な発育と確認され、子どもと1ヵ月間生活を共にしてきた男性	長谷川智恵子 ^a	栃木母性衛生 2010; 36: 25-29.
10	はじめて親となる男性の父親役割適応に影響する要因	日本	第1子を妊娠中の妊娠末期の妊婦とその夫	佐々木裕子 ^a	母性衛生 2009; 50 (2): 413-421.
11	第1子出生後の夫婦が父親役割行動を円滑に調整するための看護介入	日本	第1子が誕生した核家族の夫婦	林ひろみ ^a	日本母性看護学会誌 2007; 7 (1): 27-34.
12	周産期における夫の父親役割獲得プロセス	日本	両親学級を受講した初産の夫婦	木越郁恵 ^a	家族看護学研究 2006; 12 (1): 32-38.
13	1歳6ヵ月児をもつ父親の育児ストレス: 親役割認知および性役割態度との関連	日本	1歳6ヵ月児の父親	桑名行雄 ^a	こころの健康 2006; 21 (1): 42-54.
14	The new generation of Thai fathers: Breadwinners involved in parenting	タイ	妻が妊娠第2期から妊娠5, 6ヵ月の時期にある父親	Sriyasak, A. ^a	American Journal of Men's Health, Published online 2016; May 23.
15	Fathers' experiences of a vacuum extraction delivery: A qualitative study	スウェーデン	出産時に吸引分娩に参加した父親	Zwedberg, S. ^a	Sexual & Reproductive Healthcare 2015; 6(3): 164-168.
16	Exploring fathers' role in breastfeeding practices in the urban and semiurban settings of Karachi, Pakistan	パキスタン	乳幼児をもつ夫婦	Mithani, Y. ^a	The Journal of Perinatal Education 2015; 24(4): 249-260.
17	Father role: A comparison between teenage and adult first-time fathers in Thailand	タイ	第1子の乳児をもつ10代の父親と25歳以上の父親	Sriyasak, A. ^a	Nursing & Health Sciences 2015; 17(3): 377-386.
18	The effects of psychological variables of father's role on parenting participation	韓国	3歳から5歳の子どもと一緒に生活する父親	Roh, Y. S. ^a	Journal of Exercise Rehabilitation 2013; 9(4): 432-437.
19	Father's role in parent training for children with developmental delay	アメリカ	治療研究に参加している発達遅滞のめられる幼児をもつ親	Bagner, D. M. ^c	Journal of Family Psychology 2013; 27(4): 650-657.
20	Swedish child health nurses' views of early father involvement: A qualitative study	スウェーデン	幼児を担当する小児看護師	Wells, M. B. ^b	Acta Paediatrica 2013; 102(7): 755-761.
21	Improving research, policy and practice to promote paternal involvement in pregnancy outcomes: The roles of obstetricians-gynecologists	—	—	Bond, M. J. ^d	Current Opinion in Obstetrics & Gynecology 2010; 22(6): 525-529.
22	A comparison of mothers' and fathers' experiences of the attachment process in a neonatal intensive care unit	ノルウェー	NICUに入院する新生児の両親	Fegran, L. ^a	Journal of Clinical Nursing 2008; 17(6): 810-816.
23	Where's Dad? A need to understand father's role in child maltreatment	—	—	Dubowitz, H. ^b	Child Abuse & Neglect 2006; 30(5): 461-465.
24	Fathers and the well-child visit	アメリカ	3歳児の父親	Garfield, C. F. ^b	Pediatrics 2006; 117(4): e637-645.
25	A comparison of maternal and paternal experiences of becoming parents of a very preterm infant	イタリア	早産児の第1子をもつ夫婦	Provenzi, L. ^c	Journal of Obstetric, Gynecologic, and Neonatal Nursing 2016; 45(4): 528-541.
26	Exploring the lived experience, meaning and imperatives of fatherhood: An interpretative phenomenological analysis	イラン	第1子をもつ父親	Eskandari, N. ^a	Global Journal of Health Science 2016; 8(9): 139-148.
27	Father involvement in Mexican-origin families: Preliminary development of a culturally informed measure	メキシコ	周産期にある父親と母親	Roubinov, D. S. ^c	Cultural Diversity & Ethnic Minority Psychology 2016; 22(2): 277-287.
28	The association between paternal sensitivity and infant-father attachment security: A meta-analysis of three decades of research	—	—	Lucassen, N. ^c	Journal of Family Psychology 2011; 25(6): 986-992.
29	Assuring the integrity of the family: Being the father of a very low birth weight infant	台湾	NICUから退院後の極低出生体重児の第1子をもつ父親	Lee, T. Y. ^a	Journal of Clinical Nursing 2009; 18(4): 512-519.
30	Fathers in situational crisis: A comparison of Asian and Western cultures	—	—	Tseng, Y. S. ^a	Nursing & Health Sciences 2008; 10(3): 229-240.
31	Maternal gatekeeping, coparenting quality, and fathering behavior in families with infants	アメリカ	妊娠出産前後の夫婦	Schoppe-Sullivan, S. J. ^e	Journal of Family Psychology 2008; 22(3): 389-398.
32	Finally, daddies in the delivery room: Parents' education in Georgia	アメリカ	妊産婦ケアプログラムを行う施設の医療者とその対象となる親	Pestvenidze, E. ^a	Global Public Health 2007; 2(2): 169-183.

^aは看護学, ^bは医学, ^cは心理学, ^dは政治経済学, ^eは人間科学の所属。—は文献検討などのため該当なし。

表2 父親役割獲得不全への影響因子

影響因子	システム	カテゴリー	サブカテゴリー(括弧内は表1の文献番号とその合計件数)
危険・原因／ 促進因子 (RCP)	家族内部環境 システム	子どもがもつ障がいに対する父親の否定的認識	子どもがもつ障がいに対する父親の否定的認識 (4, 7, 15, 29, 30の合計5文献)
		父親役割獲得に対して父親がもつ障壁	父親の健康問題 (13, 18, 24, 26, 30の合計5文献) 育児に関する父親の知識・技術の不足 (18, 24, 25, 26の合計4文献)
		父親としての自身に対する否定的認識	父親自身がもつ理想と現実の父親像の乖離 (13の1文献) 父親役割に対する父親の否定的感情 (26の1文献) 父親がもつ固定的な性別役割分担意識 (13, 14, 17, 20, 26の合計5文献)
	ミクロシステム	親役割モデルになる親類の存在の欠如	親役割モデルになる親類の存在の欠如 (26の1文献)
	マクロシステム	職場から父親に対する過剰な労働負荷	職場から父親に対する過剰な労働負荷 (16, 26の合計2文献)
		医療職者から父親に対する産前・産後の教育的支援の不足	医療職者から父親に対する産前・産後の教育的支援の不足 (15, 16の合計2文献)
	クロノシステム	産後の父親像に対する父親自身の想像不足	産後の父親像に対する父親自身の想像不足 (8, 17の合計2文献)
		母親／妻の予期せぬ妊娠	母親／妻の予期せぬ妊娠 (7, 14の合計2文献)
予防・阻止／ 抑制因子 (PIS)	家族内部環境 システム	良好な夫婦関係	夫婦間の良好な役割構造 (4, 6, 7, 8, 10の合計5文献) 妻に対する夫の愛情 (8, 10, 13の合計3文献) 夫婦間の良好な意思疎通 (1, 2, 7, 12, 13, 21, 31の合計7文献) 妻の心身の状態に対する夫の配慮 (2, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15の合計10文献) 妻の分娩への夫の立会い (2, 6, 8, 10, 15, 16, 29, 32の合計8文献)
		良好な父子関係	父親と子どもとの積極的な関わり (6, 7, 9, 22, 23, 25, 29, 31の合計8文献) 子どもに対する父親の理解 (7, 8, 9の合計3文献) 子どもに対する父親の愛情 (10の1文献) 父親から子どもへの愛着行動 (2, 9, 15, 22, 25, 28, 29の合計7文献)
		子どものウェルビーイング	子どものウェルビーイング (1, 30の合計2文献)
		父親と家族システムユニットとの相互作用	父親から家族システムユニットへの支援 (4, 13の合計2文献) 家族システムユニットから父親への支援 (6, 14, 22, 31の合計4文献) 父親が家族システムユニットと過ごすこと (26の1文献)
		父親としての自身に対する肯定的認識	父親の父親役割への肯定的認識 (8, 11, 12, 13, 26, 31の合計6文献) 父親としての実感 (4, 5, 7, 9, 10, 12, 13, 14の合計8文献)
	ミクロシステム	父親が感情表出できる環境	父親が感情表出できる環境 (4, 30の合計2文献)
		関係良好な親類の存在	父親と親類との肯定的関係 (7, 14の合計2文献) 親役割モデルになる親類の存在 (8, 9, 14, 25, 26の合計5文献)
	マクロシステム	医療職者による父親役割獲得を促すための支援	医療職者による父親に対する父親意識を促す支援 (2, 8, 11, 16, 24, 25の合計6文献) 医療職者による夫婦に対する役割調整を促す支援 (11, 20, 21, 22の合計4文献) 医療職者が父親を認めること (2, 4, 7, 11, 13, 14, 18の合計7文献) 医療職者による父親への情報提供 (7, 8, 9, 14, 15, 24, 25の合計7文献) 医療職者と父親との積極的な関わり (15, 17, 24, 25の合計4文献)
		社会から父親への支援	社会から父親意識を促す教育的支援 (1, 2, 8, 10, 18, 19, 21, 32の合計8文献) 社会から父親への経済的支援 (24の1文献) 危機状況にある父親のピアサポートの利用 (2, 20の合計2文献) 父親の社会サービスの利用 (6, 18, 20, 24の合計4文献)
	クロノシステム	産前から産後の過程での家族員の肯定的な変化	父親自身が産前にもつ理想的な父親像 (8, 12の合計2文献) 産後の生活に対する父親の肯定的な想像 (8, 11, 14の合計3文献) 母親へ変化する妻を夫が認識しようとする (8, 9の合計2文献) 産後の父親役割を父親が受容する過程 (4, 8, 9, 13, 14の合計5文献)
状況依存性 因子 (CSF)	家族内部環境 システム	家族システムユニットの状態	妻の就業状況 (27, 31の合計2文献) 家族システムユニットのありよう (4, 6, 7, 9, 14, 24の合計6文献) 家族システムユニットの経済状態 (13, 16, 17, 24の合計4文献) 出産退院後の家族システムユニットの生活 (7, 25の合計2文献) 子どもの存在 (6, 7, 9, 18の合計4文献) 父親の特性 (6, 10, 13, 17の合計4文献)
		家族員間での役割期待と役割遂行	父親から母親への役割期待とその役割遂行 (13の1文献) 他の家族員から父親に対する役割期待 (8, 14の合計2文献)
	マクロシステム	父親の仕事と家庭との調整	父親と職場との関係 (5の1文献) 父親の仕事と家庭とのバランス (6, 8, 21, 24, 26の合計5文献)
	スーブラシステム	家族システムユニットが属する社会	家族システムユニットが属する文化 (7, 14, 16, 21, 27の合計5文献) 家族システムユニットが信仰する宗教 (14, 16, 26, 31の合計4文献)
	クロノシステム	父親の生活歴	父親の生活歴 (10, 13, 14, 17の合計4文献)
		妻の妊娠に伴って出現する夫の思い	妻の妊娠に伴って出現する夫の思い (9, 10, 12, 17, 29の合計5文献)

しない。

その後、各サブカテゴリー、カテゴリーをCSFETの5つのシステムの視座にしたがって分類した。分析の厳密性 (rigor) を確保するために、すべての分析は小児・家族看護学研究者3名で同時に行い、全員の合意が得られるまで検討を重ねた。

Ⅲ. 結 果

分析対象となった32件の文献のマトリックスを表1に示した。筆頭著者の専門分野は、看護学が23件、医学が3件、心理学が4件、政治経済学が1件、人間科学が1件であった。

父親役割獲得不全への影響因子を表2に示した。RCPは8カテゴリー、PISは10カテゴリー、CSFは6カテゴリー、合計24カテゴリーが明らかになった。5システム別にみると、家族内部環境システムは11カテゴリー、ミクロシステムは2カテゴリー、マクロシステムは5カテゴリー、スーパシステムは1カテゴリー、クロノシステムは5カテゴリーであった。以下では、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを「 」, 記録単位を“ ”の中に示した。記録単位名の()内に使用した表1の文献番号、サブカテゴリーに使用した文献番号は表2のサブカテゴリー名の()内に示した。

1. RCP

家族内部環境システムでは、3カテゴリーが明らかになった。【子どもがもつ障がいに対する父親の否定的認識】では“子どもに障がいがあることによる悲哀 (4)”などの「子どもがもつ障がいに対する父親の否定的認識」があった。【父親としての自身に対する否定的認識】では“理想の父親像と自己のずれ (13)”などの「父親自身がもつ理想と現実の父親像の乖離」と“伝統的な性別役割感 (13)”などの「父親がもつ固定的な性別役割分担意識」などがあった。

ミクロシステムでは、1カテゴリーが明らかになった。【親役割モデルになる親類の存在の欠如】では“lack of paternal role model (26)”などの「親役割モデルになる親類の存在の欠如」があった。

マクロシステムでは、2カテゴリーが明らかになった。【職場から父親に対する過剰な労働負荷】では“long working hours (26)”などの「職場から父親に対する過剰な労働負荷」があった。

クロノシステムでは、2カテゴリーが明らかになった。【産後の父親像に対する父親自身の想像不足】では“事前に自分の負担について予期していなかった父親 (8)”などの「産後の父親像に対する父親自身の想像不足」、【母親／妻の予期せぬ妊娠】では“予期せぬ出生 (7)”などの「母親／妻の予期せぬ妊娠」があった。

2. PIS

家族内部環境システムでは、6カテゴリーが明らかになった。【良好な夫婦関係】では“夫婦間のコミュニケーション (12)”などの「夫婦間の良好な意思疎通」、 “分娩立会い (10)”などの「妻の分娩への夫の立会い」などがあった。【子どものウェルビーイング】では“positive well-being (30)”などの「子どものウェルビーイング」があった。【父親が感情表出できる環境】では“感情表出ができる場がある (4)”などの「父親が感情表出できる環境」があった。

ミクロシステムでは、1カテゴリーが明らかになった。【関係良好な親類の存在】では“わが父の背中が父親モデル (9)”などの「親役割モデルになる親類の存在」などがあった。

マクロシステムでは、2カテゴリーが明らかになった。【医療職者による父親役割獲得を促すための支援】では“父親自身も親移行の当事者という認識をもつ (2)”などの「医療職者が父親を認めること」など、【社会から父親への支援】では“father's role education programs (18)”などの「社会から父親意識を促す教育的支援」などがあった。

クロノシステムでは、1カテゴリーが明らかになった。【産前から産後の過程での家族員の肯定的な変化】では“理想的な父親像について考える (8)”などの「父親自身が産前にもつ理想的な父親像」、 “わが妻から子の母への揺らぎ (9)”などの「母親へ変化する妻を夫が認識しようとする事」などがあった。

3. CSF

家族内部環境システムでは、2カテゴリーが明らかになった。【家族員間での役割期待と役割遂行】では“母親役割認知と妻との一致 (13)”などの「父親から母親への役割期待とその役割遂行」があり、母親の役割が父親の期待どおりに遂行されていないとRCP, 期待どおりであればPISとなる。また, “周囲が求める父親役割 (8)”などの「他の家族員から父親に対す

る役割期待」は、母親など周囲の家族員からの役割期待に父親が気づいていなかったり考えていなければ RCP, 気づいていたり理解していれば PIS となる。

マクロシステムでは、1 カテゴリーが明らかになった。【父親の仕事と家庭との調整】では“仕事と家庭のバランス (6)”などの「父親の仕事と家庭とのバランス」などがあった。これは、仕事と家庭内役割の役割調整を行っていない父親では RCP, 役割調整を行っている父親では PIS となる。

スーパシステムでは、1 カテゴリーが明らかになった。【家族システムユニットが属する社会】では、“social values (14)”などの「家族システムユニットが属する文化」などがあった。これは、家族システムユニットが属する伝統的文化や社会的文化に父親が従うことが PIS となる場合もあるが、男性優位の社会的背景によって RCP になる可能性もある。

クロノシステムでは、2 カテゴリーが明らかになった。【父親の生活歴】では“lifestyle (14)”などの「父親の生活歴」があり、これまでの生活歴において父親が人間性を育む教育をされていなかったり、父親が妊娠出産に合わせてライフスタイルを変えられないと RCP となるが、父親が人間性を育む教育をされていたり、父親がライフスタイルを妊娠や出産に適応できると PIS となる。【妻の妊娠に伴って出現する夫の思い】では“妊娠成立に対する思い (10)”などの「妻の妊娠に伴って出現する夫の思い」があり、妻の妊娠や出産に対して葛藤がある父親では RCP であるが、喜びや肯定的な感情をもっている父親では PIS となる。

IV. 考 察

養育期家族の父親役割獲得不全への RCP, PIS, CSF は、CSFET の5つのシステム別にみると、家族内部環境システムに分類されたカテゴリー数が最も多かった。家族員の役割の移行は個人および家族の発達段階に応じて行われる¹²⁾ので、影響因子は父親個人や家族システムユニットを含む家族内部環境システムに分類されているものが多くっていると推測できる。したがって、父親役割獲得不全という家族症候への家族支援を行う際には、父親個人だけではなく、父親の属する家族内部環境システム全体に対しアセスメントと働きかけを行うことが重要である。

役割理論では、役割期待に沿った役割遂行が行われ

ないときに役割葛藤が生じるといわれている¹³⁾。また、役割葛藤が生じると、多くの場合、自身の中で優先順位の低い役割は損なわれる可能性があるといわれている¹⁴⁾。CSF として「父親から母親への役割期待とその役割遂行」、「他の家族員から父親に対する役割期待」が抽出されたことから、父親の適切な役割遂行のために、家族員相互の役割期待とその役割遂行の一致を図る必要がある。

本研究の結果では、「父親自身が産前にもつ理想的な父親像」、「産後の生活に対する父親の肯定的な想像」が PIS に、【産後の父親像に対する父親自身の想像不足】、「父親自身がもつ理想と現実の父親像の乖離」が RCP に分類された。すなわち、父親が自身の理想とする産後の父親像を産前に肯定的に想像することは、父親役割を獲得するうえで重要であるとわかる。これは、PIS の「父親の父親役割への肯定的認識」にも関連している。子どもに愛情を注いだり、父親として経済的役割を果たしているといったような理想の父想像が現実の父親像と乖離しない、もしくは少しでも一致するように、医療職者は父親に対して父親像の形成や修正の支援を行う必要がある。

父親像の形成や修正に関しては、本研究の結果においても RCP に【親役割モデルになる親類の存在の欠如】、PIS に「親役割モデルになる親類の存在」が分類されたように、父親に対しての親役割モデルの提示が重要である。役割理論では、役割行動のモデルには父親や母親、兄弟姉妹など影響力のある重要他者が存在していることで新たな役割取得が起こるとされている¹³⁾。また、父親は、自身の幼い頃の父親との関わりをモデルにしたり、修正したりして自分なりの父親像を作り上げるといわれている¹⁵⁾ことから、父親像の形成や修正には適切な親役割モデルになる親類の存在が必要である。適切な親役割モデルになる親類が存在しない場合、医療職者は、親類以外に親役割モデルになる存在を同じミクロシステムから求めることが必要である。特に、すでに親役割が獲得できている他の養育期家族と関わる機会の設定などの支援が大切である。

また、妊娠後期における“父親になる意識の形成過程”では、自分が一家を支えるという責任感や自分は良い父親になれるという自信などがみられる¹⁶⁾。これは、本研究結果においても【妻の妊娠に伴って出現する夫の思い】や「母親へ変化する妻を夫が認識しようとする事」、「産後の父親役割を父親が受容する過程」

といった、妊娠や出産過程において父親がその意識を形成するという影響因子が明らかになっている。また、責任感や自信のような父親としての自覚が高まる要因として、父親が立会い帝王切開を経験するなどが関係していたと佐伯らは示している¹⁷⁾。本研究の結果においても同様に「妻の分娩への夫の立会い」が抽出されている。以上より、具体的には【妻の妊娠に伴って出現する夫の思い】がどのようなものかをまず捉え、妊娠に対する葛藤や不安を軽減したり、妊娠に対する喜びの気持ちなどを促すような、肯定的な“父親になる意識”が形成できるように支援を行い、「母親へ変化する妻を夫が認識しようとする事」を促すためにも、「産後の父親役割を父親が受容する過程」が円滑に進むような支援が必要であり、「妻の分娩への夫の立会い」などの機会を父親に提供することが有効であると考えられる。上記のように、育児を楽しむことなどの肯定的な産後の父親像をもつことが重要である一方で、本研究結果の【父親としての自身に対する否定的認識】の中には「父親がもつ固定的な性別役割分担意識」というサブカテゴリーがみられた。前述したように、固定的な性別役割分担意識は根強い問題であり、父親役割獲得不全が生じる恐れがある³⁾。このような父親の役割意識は、父親自身の自覚だけでは生まれず、父親が出産や授乳をとおして子どもと結びつくという過程をもたないことも由来しており、父親が父親であり続けるためには周囲からの不断の働きかけが不可欠であると指摘されている¹⁸⁾。すなわち、PISにみられる「夫婦間の良好な意思疎通」、「父親と子どもとの積極的な関わり」といった家族員同士の相互作用を促す機会を家族システムユニットが日常的にもつことが、家族員が期待する役割を父親が獲得するうえで有効である。そのために、医療職者は産前産後において、可能な限り家族が密接に関わることができる時間や場所、機会を作るなどの支援が必要である。また、家族外部環境システムにおいても、家族員が交流できるイベントの設定、そのようなイベントの情報提供が必要である。

川合は、医療スタッフが父親に対して、父親自身も不可欠な主育児者であると意識できるような働きかけをすることによって父親は育児に対する自信や関心を継続してもつことができると述べている⁷⁾。本研究の結果においても、「社会から父親意識を促す教育的支援」や【父親が感情表出できる環境】を提供すること

が有効であり、【医療職者から父親に対する産前・産後の教育的支援の不足】、「育児に関する父親の知識・技術の不足」が出現していないか常に注意しながら父親に関わる必要がある。そのためには支援の対象者として「医療職者が父親を認めること」といった姿勢をとりながら、父親が産前から教育的支援や分娩に立会うことができるように、その予定や内容を前もって調整することも医療職者は配慮しなければならない。また、家族外部環境システムにおける医療職者以外のさまざまな家族支援者が同様の配慮や姿勢のもとに父親に関わることができるように、家族支援者自体に対する情報提供や教育も必要である。

マクロシステムにおいては、【職場から父親に対する過剰な労働負荷】、「父親の仕事と家庭とのバランス」などといった、父親と父親自身の仕事に関する影響因子が明らかになった。成瀬は、父親の育児促進の背景要因にはポジティブスピルオーバーの高さがあり、父親が家庭と仕事の役割を両立することを肯定的に捉えられる働きが有効であることを示している⁶⁾。このことから、医療職者は、父親が仕事と家庭の両立をどのように捉えているのかを理解することから始まる。そのうえで、父親が肯定的に思う両立を家族と話し合い、家族の理想に近づけるように役割を調整することが「父親から子どもへの愛着行動」、「父親が家族システムユニットと過ごすこと」といったPISを促進することにつながり、CSFである「出産退院後の家族システムユニットの生活」において問題が生じにくく、家族システムユニット内で役割葛藤が起こっていない生活を送ることができると考えられる。

本研究の結果では、子どもに関するPISに【子どものウェルビーイング】が抽出されており、一方で、子どもに何らかの健康問題や障がいが発生した際にはRCPである【子どもがもつ障がいに対する父親の否定的認識】が発生・増強する恐れがある。父親となる夫は、出生してくる子どもの健康と発育を願い、これまでの生活行動を変更しているといわれており¹⁹⁾、CSFに【父親の生活歴】が分類されているように、父親が自身の生活歴を新たな生活へ適応できるように働きかけることが必要である。そのためにも、子どもに健康問題や障がいが発生した際、医療職者は父親に対して正確な情報提供、社会資源やピアサポートの紹介といった、子どもの健康問題や障がいに対する受容を促す支援が必要である。

スーブラシステムに分類されたカテゴリーは、CSFの【家族システムユニットが属する社会】のみである。役割理論では、役割とは個人の行動がいかに社会的に決定され、特定のパターンに従うようになるかを説明する概念であり、役割どおりの行為を行うことは社会規範にしたがって適切に行動するというを示している¹³⁾。すなわち、社会が父親にどのような行動を求め、父親がそれを遂行できているのか、また、その役割行動は家族システムユニットにとって適切であるのかを医療職者が総合的に判断する必要がある。

本研究では、CSFETを分析の基盤に使用したことにより、父親役割獲得不全という家族症候の影響因子が家族環境のどのシステムに位置するのかという全体像を包括的に明らかにできた。これにより、家族内部のみに焦点をあてるのではなく、家族環境を広く捉えた家族支援の必要性が明らかとなった。さらに、RCP, PIS, CSFの3因子に分類できたため、今後はCSFETに基づいた家族インターベンションモデルである“CSFET式家族看護過程”と“家族症候の影響因子スキーマと家族臨地推論”⁵⁾をもとに家族ケア／ケアリングを実施できるであろう。本研究で同定された家族症候へのRCPを除去・減弱し、PISを付加・増強するという家族支援によって、家族症候の出現を予防したり、解決することができる。さらに、本研究の結果を援用し、父親役割獲得不全が出現している家族に対して、CSFETに基づいて家族支援を実施することが求められる。CSFETでは家族症候の影響因子を用いて、予防的な家族支援を実施できるという特徴がある。本研究では、父親の過去の経験が現在まで継続的に影響しているというカテゴリーがクロノシステムにみられたことから、家族症候の出現以前からの家族支援が必要であると考えられる。そのため、子どもの出生を予定している家族や家族症候の出現が予想される家族に対して、予防的な家族支援の観点から父親や家族への早期の関わりが重要である。

ただし、本研究で使用したデータベースは限られているため、使用するデータベースの学問領域をさらに拡大し、父親役割獲得不全に関する影響因子の全体像を明らかにすることが必要である。本研究では、父親役割を育児に限定していなかったが、結果として育児に関連するカテゴリーが多く抽出された。今後は育児以外の役割獲得不全について検証する必要がある。本研究では、国内外の文献を対象とし、父親役割の定義

を文化的な総体としているが、父親役割獲得不全の影響因子における文化的な違いを明らかにすることはできなかった。また、父親役割獲得不全への影響因子を明らかにするところにとどまっており、今後、父親役割獲得不全に対して実際にどのような支援が有効であったかなど、父親ならびに家族システムユニットの経験を調査することが課題である。

V. 結 論

養育期家族における父親役割獲得不全への影響因子に関する32件の文献を内容分析した結果、24の影響因子が抽出され、その多くが家族内部環境システムに存在していた。RCPとしては家族内部環境システムの【父親としての自身に対する否定的認識】、過去の経験が父親への移行過程にわたって影響しているクロノシステムの【母親／妻の予期せぬ妊娠】などが明らかになった。PISとしては家族内部環境システムの【良好な夫婦関係】、クロノシステムの【産前から産後の過程での家族員の肯定的な変化】などが明らかになった。医療職者は家族を取り巻くシステムを評価し、各システムにおけるRCPを除去・減弱し、PISを付加・増強することにより、最善の家族支援を提供できる。

本研究の要旨は、2016年にGlobal Human Caring Conference（中国、武漢）で発表した。本研究は、JSPS科研費JP15H05084の助成を受けたものである。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 恒次欽也, 川井 尚, 庄司順一. 育児における父親の役割に関する調査研究 (1): 単純集計と両親の比較をとおして. 愛知教育大学研究報告 1997; 46: 105-113.
- 2) 内閣府. “平成28年度男女共同参画社会に関する世論調査” <http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-danjo/2-2.html> (参照2017-02-13).
- 3) 佐々木卓代. 男性の育児意識と育児参加. 小児看護 2012; 35 (10): 1299-1304.
- 4) 法橋尚宏, 樋上絵美, 小林京子, 他. 新しい家族看護学: 理論・実践・研究. 東京: メヂカルフレンド社, 2010.
- 5) 法橋尚宏, 本田順子, 島田なつき, 他. 家族同心球環境理論への招待: 理論と実践. 東京: EDITEX,

- 2016.
- 6) 成瀬 昂, 有本 梓, 渡井いずみ, 他. 父親の育児支援行動に関連する要因の分析. 日公衛誌 2009; 56 (6) : 402-410.
 - 7) 川合美奈. NICU スタッフによる父親への育児支援の実施状況と関連要因. 小児保健研 2014; 73 (6) : 853-859.
 - 8) Hohashi N, Honda J. Development of the Concentric Sphere Family Environment Model and companion tools for culturally congruent family assessment. J Transcult Nurs 2011; 22 (4) : 350-361.
 - 9) Iwata H. A concept analysis of the role of fatherhood: A Japanese perspective. J Transcult Nurs 2003; 14 (4) : 297-304.
 - 10) Krippendorff K. Content analysis : An introduction to its methodology. CA : Sage, 2004.
 - 11) Hsieh HF, Shannon SE. Three approaches to qualitative content analysis. Qual Health Res 2005; 15 (9) : 1277-1288.
 - 12) 野嶋佐由美, 中野綾美. 家族エンパワーメントをもたらす看護実践. 東京 : へるす出版, 2005.
 - 13) 黒田由彦, 役割理論. 黒田裕子監修. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論. 東京 : 学研メディカル秀潤社, 2009 : 252-260.
 - 14) Kaakinen JR, Coehlo DP, Steele R, et al. Family health care nursing: Theory, practice, and research. PA: F. A. Davis Company, 2018.
 - 15) 酒井彩子. 乳幼児の父親の心理 : 妊娠期からの変化. 小児看護 2012; 35 (10) : 1288-1293.
 - 16) 小野寺敦子, 青木紀久代, 小山真弓. 父親になる意識の形成過程. 発達心理研 1998; 9 (2) : 121-130.
 - 17) 佐伯正子, 袋谷友三佳, 高村 薫, 他. 立ち会い帝王切開を経験した夫の意識調査. 日看会論集 : 成人看 I 2007; 38 : 33-35.

- 18) 山極寿一. 家族の自然誌 : 初期人類の父親像. 黒柳春男, 山本正和, 若尾裕司編. 父親と家族 : 父性を問う. 東京 : 早稲田大学出版部, 2004 : 5-41.
- 19) 保田ひとみ, 畑下博世. 妊娠初期から産後1か月における初めて父親となる夫の体験. 家族看研 2012; 17 (2) : 52-63.

〔Summary〕

While fathers assume a variety of roles in child-rearing families, some tend to exhibit insufficiencies in terms of the roles they are expected to attain. The objective of this study was to review the literature concerning the influencing factors that affect insufficiencies in attainment of fathers' roles. Journal articles published over the previous 10 years were searched in Ichushi-Web (a Japanese medical database) and PubMed using such search terms as "father's role" and so on. We extracted influencing factors and performed content analysis of 32 papers in accordance with Hohashi's Concentric Sphere Family Environment Theory (CSFET). The categories regarded as risk causal promoting factors (RCP), such as "mother/wife's unexpected pregnancy," numbered eight; preventive inhibitory suppression factors (PIS), such as "good marital relationships," numbered 10. In addition, six categories were treated as context-sensitive factors. Based on the CSFET, it can be concluded that interventions in the form of additional attention to influencing factors are necessary to encourage fathers' roles attainment.

〔Key words〕

fathers' roles, influencing factor, family, Concentric Sphere Family Environment Theory, literature review